

浜から広がる新しい明日へ！！

あやか水産
(中野漁協西目青年部)
代表 綾香 良浩

1. 地域と漁業の概況

私たちの住む平戸市は、平成17年10月1日に旧平戸市と周辺3町村の合併により新しく誕生した。

古くは「平たい門戸」と呼ばれ大陸交易の玄関口として栄え、今も異国情緒が漂う平戸城下の町並みが各所に残り、県内でも有数の観光地のひとつとして知られている。また地形的に入り組んだ海岸線を多く有し、北には玄海灘、西には東シナ海を臨むなど周囲を海に囲まれ、古くから漁業も盛んに行われている地域である。私たちが漁業を営む主師町は平戸島の北西部に位置する地区で半農半漁の世帯が多く、畜産や稲作を営む傍ら定置網漁業や採介藻漁業、一本釣り漁業等が行われている。【図1】

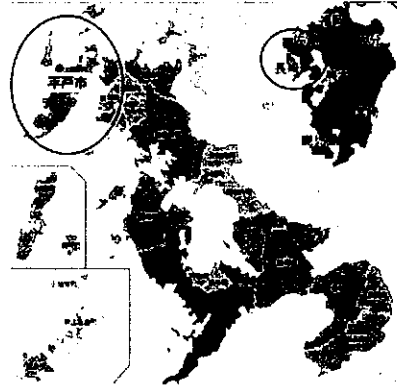


図1：長崎県平戸市

2. 漁業の概要

私たちが所属する中野漁業協同組合の組合員数は正組合員77名、准組合員115名の計192名で構成されている。主な漁業の種類は、定置網漁業、採介藻漁業、一本釣りが営まれており、平成21年度の水揚げ高は401トン、約3億円となっている。

3. 研究グループの組織と運営

私たちあやか水産は、主師町の白石漁港に事務所を有し、曾祖父の代から定置網漁業を操業し、私も2年前から4代目として経営を担っている。主な操業は私も含め家族3名と地元の人たち5名を雇用しての計8名体制で、時化のない限りは毎日、朝夕の1日2回の操業を行っている。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

近年、訪れる観光客数は宿泊客を中心に減少傾向にあり【図2】、市内の人口も昭和45年には5万8,000人であったのが、平成13年には4万2,000人にまで減少しており地域に元気がなくなっていると感じていた。さらに新鮮でおいしい魚が毎日、水揚げされる地域であるにも関わらず、PR不足によりそうした地域の良さが広く認知されていないとも感じていた。

何とかして平戸をもっと元気にできないものか、と考えていたところ、平成14年に平戸市から、たくさんの人に平戸の海を知ってもらえる場をつくりたいので漁師体験

を始めてみないかとの相談を受けたことがきっかけで、漁師体験の取り組みに挑戦した。

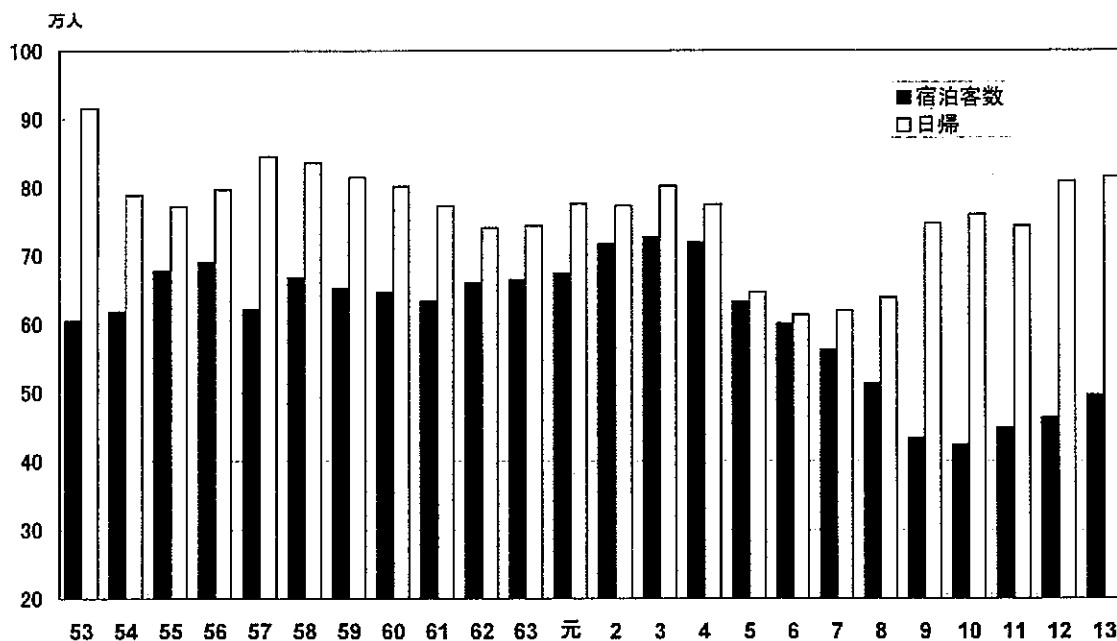


図2：平戸における観光客の変化（昭和53年～平成13年）

5. 研究・実践活動状況及び成果

（漁師体験の実施）

漁師体験のための事前準備として体験者に安心して、かつ快適に漁業を体験できるよう、漁師体験仕様の船舶を新たに建造したほか【写真1】、出港前にも約5分間、参加者に注意事項を説明することにした。

なお、定置網体験では実際の漁業を体感して欲しいという思いから、出港時間を朝6時とするなど「本物の漁師体験」をテーマに通常の漁と同じ作業内容を体験してもらうことにした。

また、単に漁労作業を体験するだけでなく、当日自分たちで水揚げしたばかりの魚を朝食として提供することで平戸の魚の新鮮さ、おいしさを味わってもらうようにしている【写真2】。

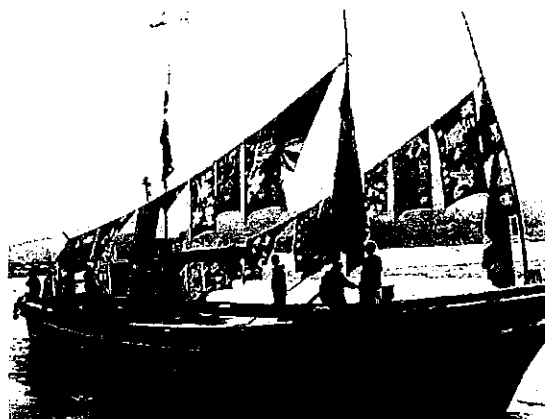


写真1：漁師体験仕様の定置網漁船



写真2：漁師体験での朝食

(実施にあたっての苦労話)

取り組みを始めた当初はとまどいの連続であった。私たち漁師は普段、魚を獲ることを仕事としているので地元以外の方とはほとんど交流はなく、恥ずかしがりやで初対面の人たちとのコミュニケーションが取りづらい状況であった。しかし漁師体験を通じて多くの人と接し子供たちの笑顔【写真 3】を見るにしたい、乗組員たちにも変化が表れ、あれだけ口下手だった乗組員のおじさんたちがガイド顔負けに平戸をPRできるまでになっていった。

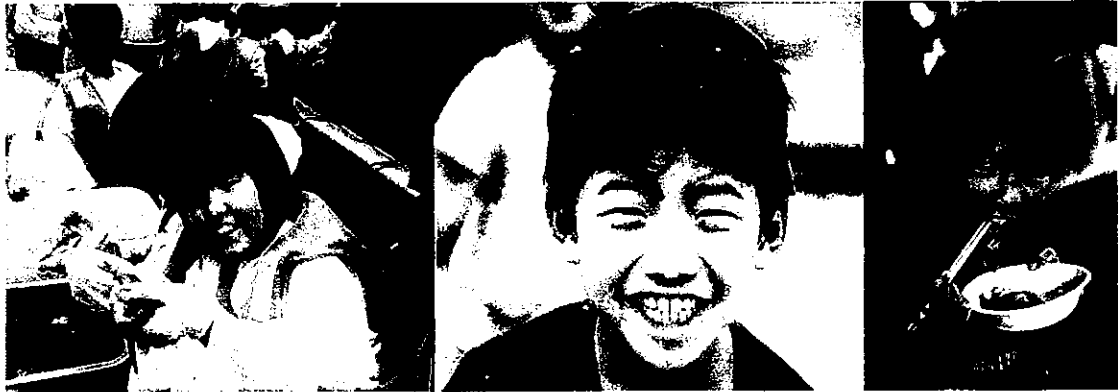


写真3：うろこまみれでも、笑顔が絶えない子どもたち

このように乗組員の漁師体験への意識の変化と向上に伴い、体験者数も年々増加していき、平成14年は285名だった体験者数が、平成19年には1,208名へと6年間で4倍あまりに増加した。【図3】このころから多くのマスコミにも取り上げられるようになった。

(海外への平戸漁師体験のPR)

平戸という地名が漁師体験を通じて全国に発信されるようになるにつれ、今以上にもっと平戸をアピールしていきたいと考えるようになった。

「これまで通り人が来るのを待っているだけではいけない」「もっとたくさんの人に平戸に来てほしい」との思いから、平成20年からは、国内だけではなく、海外にも

目を向けたチャレンジを始めることとなった。

あやか水産では漁師体験を始める際に市の観光協会に入会していたことから、同じ会員である地元のホテルとも連携し台湾で平戸の漁師体験のPRを行った。台湾の大手旅行代理店が漁師体験に興味を示してくれたことで、平成20年には台湾からの体験者が全体の2割を占めるなど、海外にも平戸をPRすることができた。

その後は、台湾をはじめとした海外のテレビ局や新聞、雑誌も取材に来るようにな

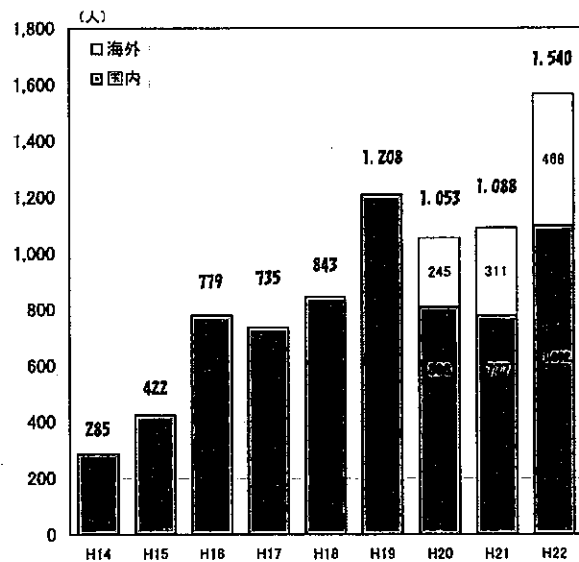


図3：綾香水産での漁師体験の受入者数 (平成14年～平成22年)

り平成21年には311名、平成22年には468名と台湾や韓国、香港、遠くはドイツまで多くの国々から平戸に足を運んでもらうようになった。これに伴い、全体の漁師体験者数も平成21年には1,088名、平成22年には1,540名と年々増加傾向にある。また直近の平成22年の体験者数のうち5割以上が地元宿泊施設に宿泊しており【図4】平戸の宿泊客数の増加にも繋がっているほか、市の観光統計によると宿泊客1人あたりの観光消費額が1万5,637円であることから、平成22年の漁師体験者数のうちの市内宿泊客数806名にかけあわせると1,260万3,422円となり、今年だけでも約1,200万円の経済効果を生み出していることが考えられた。

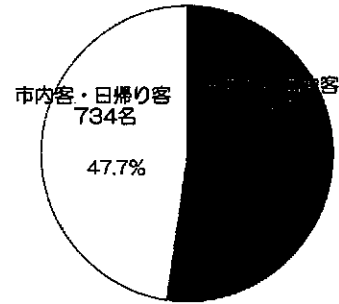


図4：平成22年の体験者 (1,540名)

(漁師体験で生まれる人脈)

漁師体験を通じて新たな人脈が生まれる。これまでに市外の飲食店や百貨店の関係者が漁師体験に来たのがきっかけで、平戸の魚を扱いたいとの話があり、平戸の魚の良さを広くPRしてもらっている。

【写真4】

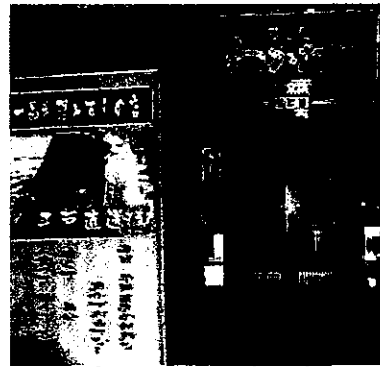


写真4：平戸の魚を扱う長崎市内の飲食店

(後継者育成の教材)

月別体験者数【図5】を集計した結果では、7~8月の体験者数が多くなっている。これは夏休み期間中に家族連れを中心に漁師体験に来る人が多くなるからなのだが、ある親子が参加した際に、「なんで鯛が網の中で泳いでいるの？スーパーで寝てるんじゃないの」と子供が発した言葉に驚きを隠せなかった。魚が本来どういうものなのかを知らない、これが今の日本の子供たちの現実なのである。

このことがきっかけで私たちは魚のこと、海のこと、漁師のこと、漁業のことをもっと地元の子供たちに知ってほしいと思うようになり、漁協青年部活動の一環として漁師体験を内容とした水産教室を始めた。そうした水産教室の一つとして普段海と接する機会の少ない市外山間部の地域の子供たちを平戸に招いて地元の子供たちと漁師体験を通じての交流会も開催した。

【写真5】

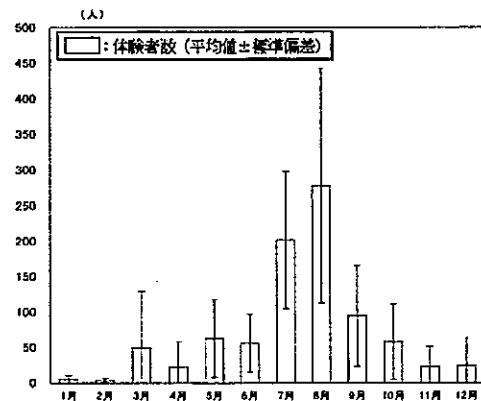


図5：綾香水産における月別体験者数 (平成14年~平成21年)

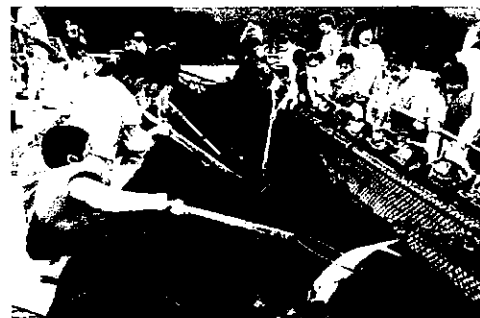


写真5：水産教室での漁師体験

山間部の子供たちが興奮していたことも印象深かったのだが、地元の子供たちから「将来、僕も漁師になりたい」という言葉が出たときには、この活動を通じて子供たちの将来になりたい職業の選択枝の一つに漁師が選ばれたのだと本当に感激した。

ちなみに今年から、新たに地元で漁師になった2名の若者【写真6】は、実はこの水産教室での漁師体験の第1期生で、本当にこの体験が地元の子供たちに漁業の魅力を伝えるよい機会になっていると実感できている。

また漁協青年部活動では、部員の中に独身者が多いことから女性との出会いの場をつくるための「結婚物語」というパーティーを開催しており、その中でも漁師体験を目玉として開催している。

非日常（漁師体験）を男女がともにすると恋が生まれやすいと言われていたが、その言葉どおり、これまでに3組のカップルが結婚まで発展し子供も生まれ平戸市の人口増加に一役かっている。【写真7】

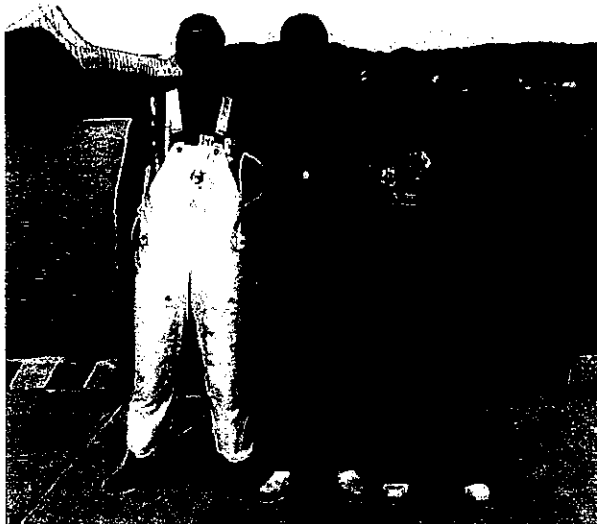


写真6：地元に残ることを決めた2人



写真7：結婚物語で結婚した3組

6. 波及効果

（地域内外への漁師体験の波及）

私たちが取り組んだ漁師体験をきっかけに、市内の他地区でも水産業だけでなく農業や商工業分野でも体験観光が始まるようになった【表1】。

このとき平戸市南部の志々伎地区でも同様の漁師体験が行われることになり、始めるにあたって相談を受けた。民泊と漁業体験を組み合わせたこちらの地区でも修学旅行生など団体客の受け入れを中心に行っており、年々集客数も増加してきている。また長崎市の野母崎地区など、市外からも視察に訪れており、その後、実際に地元で漁師体験を始めている。こうしたことから、私たちの取り組んでいる漁師体験が平戸

体 験 名	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
漁師体験(綾香水産)	285	422	779	735	843	1,208	1,053	1,088
透かし彫り体験(平戸焼)	51	193	320	178	268	85	0	144
かまぼこ作り体験	51	42	11	0	7	38	20	30
干物作り体験	51	11	28	52	8	80	30	4
いかしゃくり体験	0	10	7	10	1	34	10	0
高島まるごと体験			-	0	3	?	0	0
漁師体験(志々伎)			-	79	47	428	821	1,437
アスパラガス収穫体験			-	3	47	12	46	22
塩作り体験(塩炊き屋)			-	207	115	316	390	463
塩作り体験(長崎慈眼堂)			-	38	24	35	30	20
イチゴ収穫体験				-	33	151	191	181
生シイタケ摘み体験				-	8	8	10	42
教会絵付け体験(平戸焼)				-	171	180	2	0
ガラス細工					527	-	-	-
夏香収穫体験					45	100	149	166
乗馬体験					17	271	1,522	1,212
合 計	438	678	1,145	1,302	2,164	2,946	4,274	4,809

表1：市内の体験観光の実績（平成14年～平成21年）

市だけでなく、長崎県全体に広がりを見せているのではないかと感じている。

（地元女性グループによる食堂事業の展開）

漁師体験を始めてから、私の母も平戸のおいしい魚をもっと知って欲しいと思うようになり地元の漁家の奥さんに協力を要請し、平戸で漁獲された魚しか出さない漁師食堂『母々の手』をオープンさせた【写真8, 9】。平成20年の開店から3年目ですすでに約2万人の来客があり、特にゴールデンウィークや連休期間には多くのお客さんが訪れるため、アルバイトを雇ってしのいでいる状況である。こちらも平戸の新たな食の魅力提供スポットとして定着しつつあり、地元女性を数名雇用しているので新たな雇用の創出にもつながっている。これからの水産業は男性だけでなく女性がいかに主役になるかがポイントで持ち前のおばちゃんパワー全開で、地域のPRを行っていくことも必要であると感じている。



写真8：漁師食堂『母々の手』



写真9：『母々の手』内の様子

7. 今後の課題

「平戸をもっと元気にしたい」「海のことをもっと知ってほしい」との思いから始めた漁師体験も今年で9年目を迎えている。その間、漁師体験をきっかけとして様々な取り組みが生まれ、その度に周囲の人たちの協力を得ながら何とか乗り越えてきた。それだけに自分一人の力がいかに微力であるかも痛感している。

今後は農商工との連携【写真10】など幅広いネットワークを形成することにより、平戸に多様な体験メニューを充実させたり、平戸特産のおいしい魚や新鮮な野菜、特色のあるスイーツなどを組み合わせた食のツアーを企画するといった、平戸の魅力を総合的に打ち出せるような活動に発展させていきたい。



写真10：農・漁・商工青年部が協力し
地元イベントへ参加

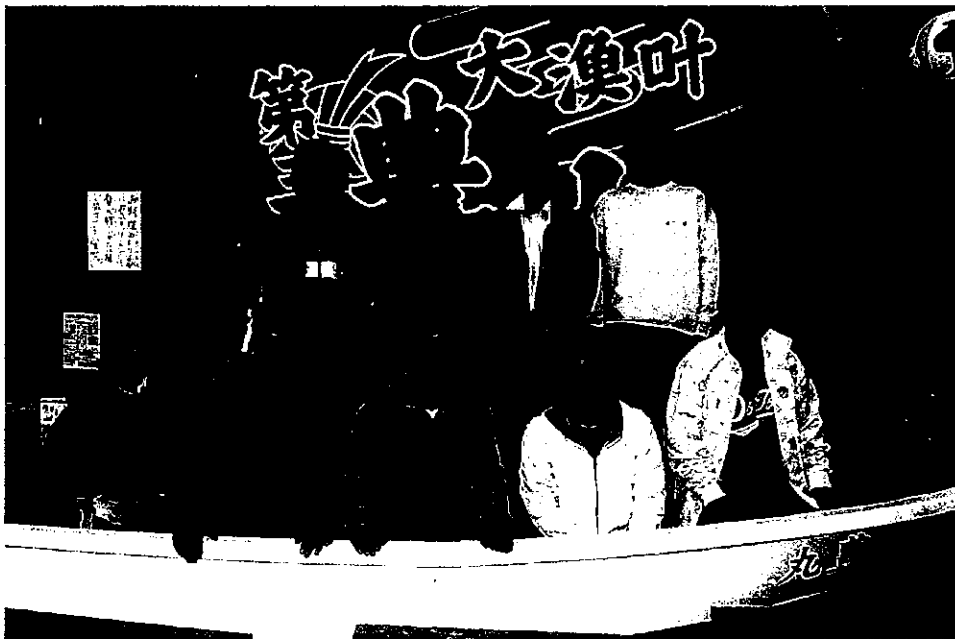


写真11：青年部の仲間たちと